

令和3年度文京区アカデミー推進協議会 第2回分野別分科会（文化芸術分野）
概要記録

日時 令和3年6月9日（水）書面開催
委員 田中雅文委員◎、増田純委員、三浦武裕委員、高澤芳郎委員、牧野恒良委員、増田みゆき委員、田口稔己委員、柳下幸一委員、山内豊委員、高橋由貴子委員、今井瑛里子委員（◎座長）
幹事 高橋征博アカデミー推進部長、細矢剛史アカデミー推進部アカデミー推進課長、齊藤嘉之教育推進部真砂中央図書館長
資料 資料1 次期アカデミー推進計画の構成（案）
資料2 文化芸術分野の定義及び現状と課題
資料3 意見等記入様式

会議内容

- (1) 次期アカデミー推進計画の構成（案）について
- (2) 文化芸術分野の定義及び現状と課題について

以下、書面会議のため項目ごとにご意見を列記する。

○項目に対する意見 ●その他の意見

① 文化芸術に触れることのできる機会の確保

ご意見
○コロナの影響からの早期脱却を目指し、「鑑賞」と「活動（創造）」の両面での停滞を防ぐ為にも、動画配信活用が急務であり、オンライン・YouTube・CATV等の活用計画策定と実現に取り組むことが必要。
○地域の拠点として、学校の視聴覚室の活用や図書館・地域センター等での視聴覚サービスの導入・提供といった「場を増やしていく」ことも有効と考える。
○感染拡大防止対策を徹底し、「機会」を創出することと、「施設」を活用すること、「オンライン」での開催に主催する側受講する側も慣れること、が重要と感じました。それらを実現するために、「どうしたら安全安心なのかのガイドラインを明確にすること」「オンライン講座のための講座を開催しweb完結のバリアフリーを目指すこと」「屋外屋内の施設の安心安全な活用方法の開拓」あたりがテーマになりそうに思っています。
○鑑賞や活動等で対面に勝るものはないが、オンラインでの講演や勉強会等がよく行われるようになったし、コロナの終息後も、利便性等から利用されると思う。その場合、オンラインと対面との併用で、それぞれの利点を活かした活動が望ましい。

ご意見

○場所(会場)の確保は大変だと思う。引き続き使用できる所も、殆どが感染防止の為に人数制限をしているし。また、(学校などで)一部の施設を教室に作り替えるという事もある聞く。

○デジタルが有効だが、「だれも触れる事ができる」という事では、(デジタルに弱い人もいる。「弱者」をどう配慮して支援をしていくかが課題である。

●70代半の女性が、孫とラインで交流するうちに操作等を覚え、Zoomの講演会にも出席するようになった事も聞きました。構えて「教える」のではなく自然に学び、技能が向上するという流れもあるように思います。

○シビックホールの改修期間であるため、区民の文化芸術鑑賞機会が減っているのはやむをえませんが、シビックホールは区民にとって、レベルの高い芸術が近くで、かつ安価楽しめることが、特別な魅力です。改修期間では、代替機会を出来る限り増やす施策を講じる必要があると思います。

○コロナ収束後での提案

<町ごと美術館 博物館>

文化芸術は必ずしも有から無へ、上から下へと提供するものばかりではない。日々の生活の場に息づいている店舗のショーウィンドー、生垣の花々、人々の会話の中にも、鑑賞の対象となり得るものや、鑑賞につながるきっかけがある。まずは明るく清潔な街づくりから。

○生活必需品でないとなみなされてしまう文化芸術は、一度人々との接点が途絶えてしまうと、鑑賞、活動の場を人呼び戻すことが困難になると考えられる。そのため、従来のような意欲ある人が鑑賞に行くようなスタイルだけではなく、より多くの人々が生活の中で文化芸術に触れることができるような仕組み作りが必要と考えられる。

○この1年、新型コロナウイルス感染症の影響で様々な制限があったが、今後ワクチン接種の進み具合などで状況が変わることも予想される。あまり保守的な対応をしても区民の気持ちも疲れてしまうのではないかと思う。

オンラインもちろん大切だが、出来ることを積極的に実施していくことも区民にとって有益なのではないかと思う。

例えば、文京区をまるごと美術館のようにして、めぐることのできる企画や、音楽も欧米のように公園など屋外でのオープンコンサートのようなものも面白く、だれでも参加できる企画として考えていくのはどうか。

② 文化芸術の次世代を担う人材の育成

ご意見
<p>○子供は親・親族・友達からの影響を受け易く、そのような集団・チームをセットとして計画策定していくとの方向も有効と考える。</p> <p>【具体的な取組案】</p> <p>例えば、親子を対象とした楽器教室など（オンラインが可能）でしたら、親のフォローも期待でき、習熟意欲・継続性に有効と思う。</p>
<p>○「子供たちに伝える」伝統文化において一番直面している課題です。芸術文化振興費補助金が昨年度の補正予算を未だに使用するくらい多くの予算を割いて、各団体の申請に応じてあてがわれておりますが、その多くはメディア芸術（アニメーション、電子機器を利用した芸術）関連で多くを占めています。単純に子供たちが取っつきやすいということで、例えば文化庁令和二年度収益力強化事業でも採択を受けた案件は、ほぼ100%上記絡みのもので御座いました。大人もきちんと分かっていない「文化芸術（特に伝統文化）がなぜ必要なのか」という問いに、自信を持って応えられる、子供らを納得させることの出来る答えを示してやる必要があります。</p> <p>【具体的な取組案】</p> <p>歴史を学習する中でこれまで世の中で活躍してきた武将や偉人がどのように文化芸術をたしなんでいたかを探る、とか、コロナ禍において人と交流出来ないことで精神的に追いつめられるケースで文化芸術や学習活動によって自身を磨くことの重要性に気づかせるきっかけにする、など。</p>
<p>○大学等にも文化芸術の部活やサークル活動があるので、大人（中・高年も含め）子供達との交流も良いと思う。日本の伝統芸術のサークル等も大学にはあるが（大学に限らず若者のグループ等も）、アニメ等も貴重な「文化」と思う。また、クラシックバレエ等の鑑賞や理論的勉強も、これからの若い人達が興味を持って担ってくれると思う。伝統文化というと旧い日本的なものを考えがちであるが（それも文化資産であり尊重すべきものだが）「新しい文化」を築いていくのも次世代の人達である。</p> <p>【具体的な取組案】</p> <p>○（今はコロナ感染防止の為に全面的に停止されているが）例えば茶道、お茶を味わう事で「実践の入り口」となるが、生け花、作法、掛け軸や道具、茶室、庭園等の鑑賞において非常に高い芸術性がある。</p> <p>○能の鑑賞等、宝生能楽堂もあるが、子供達に基本的な動作や歴史等が簡単に説明されると（芸術性が高いものなので）、興味を持ちもっと習いたいという子供も出て来ると思う。</p>
<p>○子供たちへのアプローチを、区・芸術団体・学校が連携して行える仕組みを整えていくことが大事だと思います。私は、中学校時代に学校の先生が、能の鑑賞に連れて行って</p>

ご意見
<p>くれたので、今でも能楽への関心が続いています。</p> <p>【具体的な取組案】</p> <p>上記の観点から、中学校等の先生の鑑賞機会を設けられないでしょうか？</p>
<p>【具体的な取組案】</p> <p><例>子ども一箱本屋さん</p> <p>不要となった本や文具などを持ち寄り、一人一人が店主となり、提供された段ボール箱の上において、販売（？）または物々交換を行う。</p>
<p>○ウィズコロナ期で安全を担保した形での人材育成が困難な場合、学習分野での連携による興味・関心の育成は重要である。</p> <p>若手の育成においては、「文化資本」や「家庭の文化的環境」の影響を考慮し、家庭環境以外で文化芸術に触れる場を平等に提供することが肝要である。</p> <p>【具体的な取組案】</p> <p>子どもむけのオンラインコンテンツの提供や、学芸員や芸術家によるヴァーチャルレクチャー／ツアーを通して、敷居が高いと考えられる文化芸術の鑑賞の仕方や楽しみを学べるのではないかな。</p> <p>参考</p> <p>ルーブル美術館「ルーブルキッズ」https://louvrekids.louvre.fr/</p> <p>MOMA「MOMA キッズ」https://www.moma.org/audio/playlist/289</p> <p>ニューヨークフィル「キッズゾーン」https://nyphilkids.org/index.html</p>
<p>○各文化芸術団体が積極的に人材の育成を行っているとは思いますが、やはり子どもの頃から触れていくことで培われていくものもあるのではと思う。</p> <p>楽しいだけでなく、今後の日本経済、文化の中で重要な役割を担っていくものであることを積極的にアピールしていくことも必要ではないかな。</p> <p>【具体的な取組案】</p> <p>自分から積極的にイベントに参加するのは、ご家庭のお考えなどもあり、なかなか難しいものがあると思うので、そこに行きつく為に学校と協力し定期的に授業を実施していくのはどうか。</p> <p>試験的に、学校ごとに分野を分けるなどするのも面白いのではと思う。</p>
<p>●専門外なので個人的な感想として。今まで同様に、親子（大人も子どもも）楽しめるレベルの高い「子ども向け」芸術の提供を望みます。「子どもだまし」ではなく、小さい頃から「本物」に出会うことができる機会をますます増やしていただきたいと思います。私自身も60年以上前文京公会堂に3才のころ、大人向きのピアノコンサートやオペラによく出かけました。文京区主催でなかったにしろ、シビックホールは昔から「子どもに本物を聴かせる・観せる」場所として歴史があるようです。</p>

③ 文化資源の再発見と活用の推進

ご意見
<p>○観光分野との連携も視野に入れ、協定他自治体との連携・協働により、これまでに無い文化芸術資源に触れることも望まれる。</p> <p>○デジタル技術の発展（高精細化、ドローン技術等）により、これまでの文化資源の見方、見せ方が変化する可能性もあり、そういった視点での検討も、是非必要と考える。</p>
<p>○地域文化（=文京区内に存在する文化資源）の再発見とそれらの適切な活用というのがテーマの中で、これまでも協議会の中で文化資源はたくさんある、という意見が多かったが果たしてその文化資源は本当にこれからの時代で多くの人に触れる意義のあるものなのか、次世代に引き継いでいく必要のあるものなのか、は一度整理しておく必要があると感じております。そこにあるから活用しないと勿体ないという考えに凝り固まらないことを望みます。何かに特化して研究している詳しい人は、それらを一方的強制的に推しがちなのでそこは文京区としてやるべきことかをきちんと見極めることが大事だと考えます。</p>
<p>○カイザースラウテルン市と姉妹都市であるが、ドイツの文化等を学ぶことも若い人も興味を持つと思う。</p> <p>○コロナの影響でデジタルを重用する昨今ではあるが、そればかりでなく積極的にデジタル技術を利用して、新しい文化に活用していく、さらに高めていく事もできるのではないか。</p> <p>○文化芸術を学んだ区民が、その知識を活かし、新たに創造していくこともあると思う。</p>
<p>○コロナ禍であり、また、シビックホール改修期間という二重に文化芸術を直接楽しめる機会が、当面望めない現状では、やむをえませんが、やはり、文化芸術は直接触れることが最大の醍醐味です。オンラインの活用、今後のデジタル技術の活用と同時に、このことを追及して行きたいと思います。</p>
<p>○鑑賞者の裾野を広げないと、文化芸術は生きのびてゆけない。</p> <p>質の高い文化芸術に恵まれている文京区ではあるが、ここで少し視点、角度をかえて、世界で高い評価を得ている日本の漫画、コミック等のサブカルチャーを取り上げてみてはいかがか。</p> <p>この手のものは、子供から大人までファン層がかなり広いので。幸い、区内にはこれらを扱う大手の出版社、印刷会社当が在しているので、協力を仰ぐのも一案。</p>
<p>○住民や来訪者にとって親しみやすい切り口でのコラボレーションによって、既存の文化資源の再提示が重要ではないか。</p> <p>また、観光分野での連携を視野に、在住・在学・在勤の外国籍の方の意見を取り入れることで、新たな視点で地域資源の再評価ができる可能性もあると考えられる。</p>

ご意見

○東京オリンピック・パラリンピックで肌で感じてもらえる文化は減ったように感じるが、同時に世界中にオンラインでアピールすることは想定していたよりも大きな反響があるのではと思う。

デジタル技術を活かした新しい文化資源は区民も関心のあるところではないかと思うので、共に作り上げていくものであっても良いのでは。

また、区民だから実際に触れることのできる文化もあるので、それを区民が主体（リポーター等）となって発信したりすることも、文化の再発見等に繋がると思う。

④ 文化芸術の性質を踏まえた支援の充実

ご意見

○文化芸術を守るということは、その提供者を守ることに他ならないと考えます。その為に、改めて、自治体として、どこまで関わるのか、どのように関わるのかを明確にする必要があると考えます。

○前回の書面開催協議会の意見を取り入れて頂き感謝申し上げます。一見関係なさそうな物でも文化芸術振興の一環として重要な役割を果たしているものがあります。一例として「松」立木など、能楽の一部の曲目を上演するのに不可欠なのですが、必要な時期に必要なだけ使うのでは流通させられません、ある程度定量をコンスタントに使用する当てが無いと松林を管理している人が育てられないからです。全国の能楽堂で橋掛かりの松を生木で毎月交換しているのは宝生能楽堂だけです。それはある程度まとまった量を使用することで一年中いつでも松を使えるようにするための、いわば能楽界のための宝生会の慈善事業とも言えます。伝統文化はお互いを思いやり、感謝し、その思いの大切さを次世代に受け継いでいくという、まさに日本人好みで今のコロナ禍だからこそ理解される性質の芸能であります。その場しのぎで瞬間的に楽しいものへの集中、稀薄な人間関係など現代に特有の問題課題に対抗するために、国や自治体が力を入れていく、これらは学習活動やスポーツにおいても当てはまる重要なことだと思っています。②で記載した「子供たちを納得させることの出来る答え」のヒントがここに有るような気がしてなりません。

○確かに、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったし、活動が停滞した事も多かった。集まって練習できない事も致命的なところがある。しかし、(スマホのメールは大概の人はできるし) デジタルで繋がっていけないであろうか。また、若い人はデジタルも得意だし(町会等を通してでも) 引き込んでいって、新たなネットワークが構築できれば良いと思う。

○限られた予算を考慮すると、個別支援ではなく、文化芸術活動団体の共通ニーズを捉えて包括的に支援することが重要である。

ご意見

また、行政だけの支援で不足する場合には、メセナ、クラウドファンディング等、ファンド獲得方法についての支援をすることも必要と考える。

○コロナ禍において、文化芸術、スポーツの果たす役割の大きさを実感しているのは区民も同じだと思うが、様々な立場や考え方がある中でメンバーの減少を止めることは難しい。

これまで文化芸術とは関係のなかった企業の力を借りるなど、新しい動きが必要ではないか。

学校においては、特に子ども達のメンタルヘルスの問題が課題となっている中で、文化芸術の果たす役割は大きなものであることを感じる。国や自治体が子ども達の文化芸術に触れる機会を増やすことで、双方の課題をクリアしていくことができるのではないかと思う。

⑤その他

ご意見

○長引くコロナ禍の影響で停滞しがちにはなっているが、少しずつでも回復させていく他ないと思う。感染対策は怠ってはならないが。

以上